

令和2年 文化財防火デーに伴う 消防訓練計画書



多宝塔

【訓練日時】 令和2年1月26日（日） 9時00分から10時00分

【訓練場所】 高島市朽木宮前坊289番地 邇々杵神社境内

訓練概要図



有形文化財・・・道々井神社 (①多宝塔、②本殿、③河内社)
有形文化財・・・木造釈迦如来像、木造男神坐像 (彫刻)



① 多宝塔



② 本殿



③ 河内社



④ 神輿

【凡例】

- (with red border) ... 消防水栓
 - (with red border) ... 無蓋消防水栓
 - 指 ... 消防隊 (消防本部)
 - (with red border) ... 出動ポンプ車両 (消防本部/団)
 - ... 消火栓
 - (solid black) ... 団ホースライン (第1線目)
 - - - (dashed black) ... 団ホースライン (第2線目)
 - (solid red) ... 本部ホースライン (第1線目)
 - - - (dashed red) ... 本部ホースライン (第2線目)
 - (solid blue) ... 自警団ホースライン
- 重要文化財**
道々井神社 (①多宝塔、②本殿、③河内社)
④神輿は重要文化財に登録されていない。

【活動の流れ】
社務所から出発しているところを、区長が発見、119番通報後、初期消火および文化財等を搬出する。
消防団、消防本部は延焼防止を実施。

【使用車両】
・消防朽本分団 ポンプ車 2台
・北部消防署 指令車 1台
・北部消防署朽本分遣所 ポンプ車 1台

1 目的

この訓練は、「文化財防火デー」に伴う行事の一環として貴重な財産である地域の文化財を火災、地震その他の災害から守るため、文化財の所有者をはじめ関係機関が防火防災体制の充実強化を図り、関係者はもとより地域ぐるみで文化財愛護に関する意識の普及と防火意識の高揚を図ることを目的とする。

2 実施日時

令和2年1月26日（日） 9時00分～

3 実施場所

高島市朽木宮前坊289番地 邇々杵神社境内

4 主催

高島市教育委員会
高島市消防本部

5 訓練参加機関

宮前坊区民・宮前坊自警団・高島市消防団・高島市消防本部

6 訓練の主眼

当訓練を契機として初期消火の重要性、迅速な119番通報を認識するとともに文化財の愛護思想と防火意識の高揚を図るものとする。

7 訓練参加者および車両

高島市消防団	ポンプ車2台	(朽木分団)
高島市消防本部	指令車1台	(北部消防署)
	ポンプ車1台	(朽木分遣所)

8 訓練想定

令和2年1月26日（日）午前9時00分頃、高島市朽木宮前坊 邇々杵神社社務所付近から出火、消火活動をするものの強風下により火の粉が邇々杵神社へ延焼するおそれがある。

9 訓練内容

- (1) 区長が火災を発見、119番通報をする。
- (2) 火の粉が飛散してきているので消火器で初期消火、協力してバケツリレーを行う。
- (3) 住民が文化財を屋外の安全な場所へ搬送した後、初期消火活動に加わる。
- (4) 自警団は、邇々杵神社直近の無蓋防火水槽に部署し可搬ポンプで放水する。
- (5) 通信指令課は訓練通報を受信後、火災出動指令を出すと共に消防団を要請する。
- (6) 高島市北部消防署指揮隊は、火災現場直近に指揮本部を設置し全体を把握する。
- (7) 高島市消防団朽木分団は、待機場所から出動、1台は田中肇宅東側の防火水槽に部署し、邇々杵神社前三叉路付近に停車した団ポンプ車に中継送水を行い、中継

完了後に1線2口（分岐管）で警戒放水を行う。（拝殿および本殿、河内社へ）

- (8) 高島市消防本部は宮前坊集会場前の有蓋防火水槽に部署、1線2口（分岐管）放水を行い、火点放水（社務所）および多宝塔への警戒放水を行う。

1 0 安全管理等

- (1) 各出動車両は前照灯および回転灯を点灯し、一般交通規則に従い交通事故のないように十分注意すること。（サイレンは吹鳴しない）
- (2) 各隊は、分隊長の指示のもと規律ある活動を行うとともに自ら安全管理に努め、積極的な訓練を行うものとする。
- (3) 放水場所は本殿と河内社との敷地外空地とする。（建造物に放水はしない）
- (4) 鎮火、放水止め、撤収などの連絡事項は、ハンドマイクまたはデジタル無線機で行う。

1 1 閉会

- (1) 区長挨拶
- (2) 教育長挨拶
- (3) 消防団長講評

1 2 その他

- (1) 悪天候の場合は、当日7時までに中止を決定する。
- (2) 火災発生時は、訓練を中止する。
- (3) 邇々杵神社の略歴について

【多宝塔】・・・多宝塔とは、寺院建築における仏塔の建築様式の一つである。邇々杵神社の境内の外にあるが、かつて仏教の形式で神社の祭祀を行う神宮寺がこの地にあったことを示す建築物である。多宝塔は、1層部分が方形（四角形）で2層部分が円柱形、屋根は四角錐（宝形造）の屋根と相輪（最上部の装飾）で構成される一般的な多宝塔の様式を採っている。また、1層の中には須弥壇が設けられ、本尊である釈迦如来像を安置している。県内で多宝塔が現存するのは大津市の石山寺と邇々杵神社だけであり、近世に建てられたものとしては県内唯一である。当時の朽木の技術力・経済力を知ることのできる建造物である。

【邇々杵神社本殿】・・・邇々杵神社は古くは朽木大宮大権現と呼ばれ、朽木一帯の産土神であったと伝えられている。明治8年（1875年）に河内神社と改称しましたが、その後邇々杵尊（ににぎのみこと）と十禅師（じゅうぜんじ）を祀るこの邇々杵神社本殿を主殿とし、河内神社を境内社とする形となり現在まで続いている。

【河内神社本殿（河内社）】・・・河内神社本殿は江戸時代を通じて「大宮大明神」と呼ばれ、近世以前は河内社が主殿で隣の邇々杵神社本殿が境内社であったと考えられている。河内社の建立年代を示す棟札などは確認されていないが、河内社に用いられている技法などが邇々杵神社本殿とよく似ていることから、17世紀中期の建立と考えられている。

現場経路図

【待機場所】

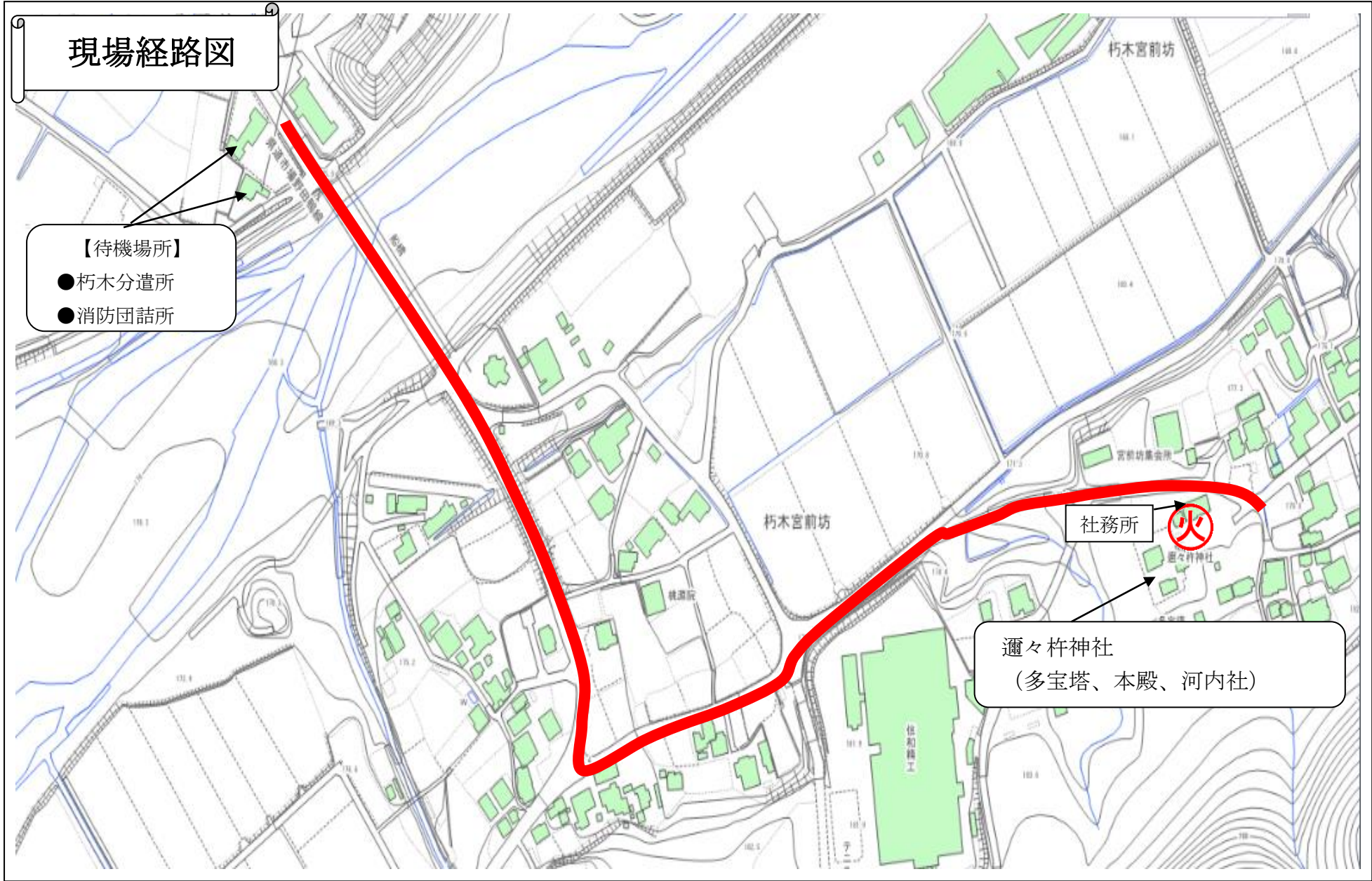
- 朽木分遣所
- 消防団詰所

朽木宮前坊

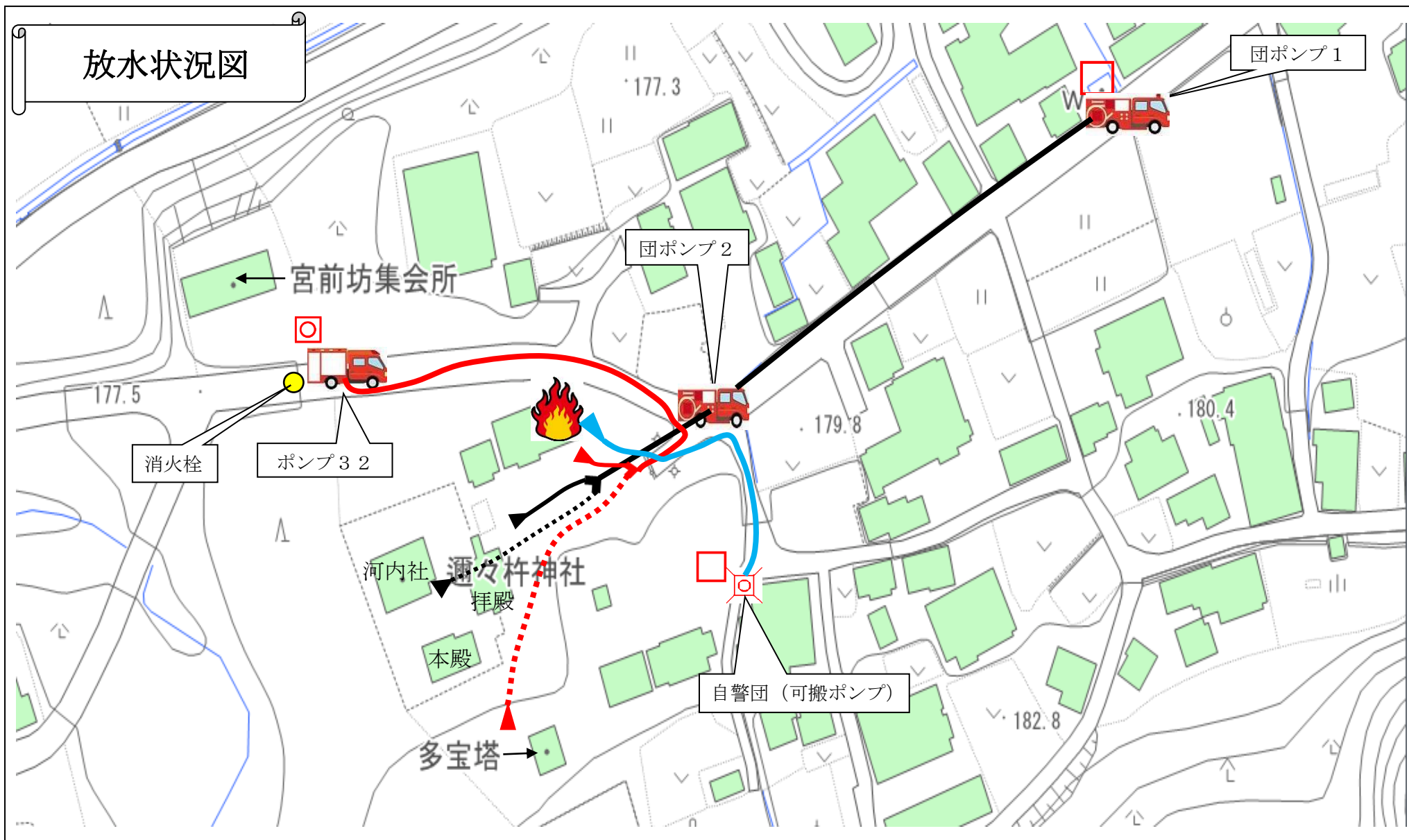
朽木宮前坊

社務所

辻々杵神社
(多宝塔、本殿、河内社)



放水状況図



市民行動図

社務所



簡易水槽

バケツリレー

初期消火

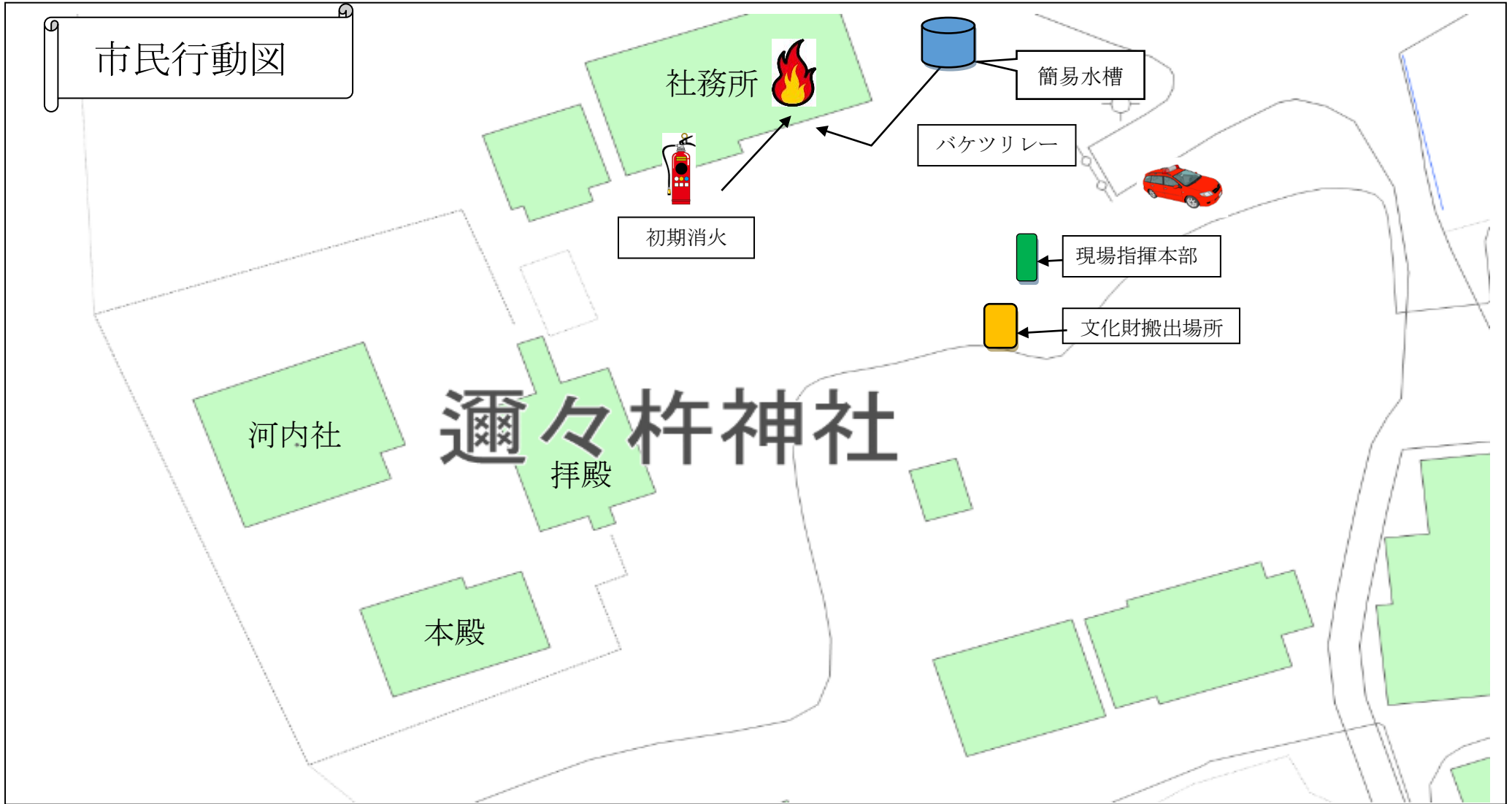
現場指揮本部

文化財搬出場所

河内社

通々杵神社
拝殿

本殿



< 訓練概要 >

- 9時00分 邇々杵神社社務所から炎が上がっているのを区長が発見。
消防本部へ119番通報する。(区長)
通報後、近くの消火器(水消火器2本:消防本部用意)で初期消火(住民2名)、住民が持ってきた消火バケツでバケツリレーを行う。
自警団は、邇々杵神社直近の無蓋防火水槽に部署し、可搬ポンプにより社務所へ放水する。
- 9時00分 区民は協力して文化財を安全な場所へ移し、その後バケツリレーに加わる。
- 9時01分 通信指令課は、訓練火災指令を出すと共に消防団に出動要請をする。
- 9時02分 朽木分団は消防団詰所から出動する。
指揮隊および消防隊は朽木分遣所から出動する。
- 9時05分 指揮隊は現場付近へ到着後、火災状況を通信指令課に報告。
① 指揮隊 ②消防隊 ③朽木分団の順で現場へ進入する。
- 9時06分 朽木分団の1台は田中肇宅東側の無蓋防火水槽に部署し、中継送水を行う。もう1台は邇々杵神社手前で停車し、中継完了後、1線2口放水を行う。
指揮隊は、火災現場全体が把握できる鳥居南側に現場指揮本部を設置する。
消防隊は、宮前坊集会場の有蓋防火水槽に部署し、1線2口放水体制を取り火点放水および多宝塔への警戒放水を行う。
- 9時20分 鎮火、撤収開始。
- 9時30分～ 閉会式(邇々杵神社境内)